

弔 辞

後小路先生 先生のご逝去はあまりに早く、あまりに突然でした。

ご一緒させていただいた昨年末の学生コンパで、学生に囲まれ楽しそうにされている先生のお姿を拝見したのは、まだ三ヶ月前のことです。

学年末試験の答案をお持ちして、学生を伸ばすにはどうしたらいいのかなあといういつものお言葉を賜った時から二月もたつていません。

まだ、お隣の研究室のドアを開くと、もうもうたるタバコの煙とともに先生の呵呵大笑される笑い声が流れてきそうな気がしてなりません。

先生とご一緒できたのはわずかに十年あまりではありましたが、大変多くのことを教えていただきました。

学生をどのように育てていくのか、目標とするビジョンはあるのか、そのビジョンを実現するにはどうすればいいのか、先生は絶えず私たちに問いかけられ、考えさせてくれました。

それらのお話の中から、根本的な地点にもどつてのカリキュラムの改正、郷土出身で芸能や教育に携わっていらつしやる方々のご助力を仰いでの開かれた教育構想、学生の顔が見えるホームページ作りなど、現在の学科の方針がいくつも生まれました。

そして先生は率先してその実現にご尽力なさいました。国文学科になくってはならない人でありました。まだまだご一緒してお教えをいただきましたかたつたのに、残念でなりません。

先生は常に学生のことを思い、学生にとって何をするのが一番いいのかと考えられました。真の教師であられました。それは学生のみならず、私たちにとつても同様でした。私たちは先生にお会いできて本当に幸運でした。今は先生の教えを直接受けることはできなくなりましたが、先生のご遺志とご情熱とをついで、教育にまた学生の指導に励みたいと思います。どうぞご安心ください。

今こうしてご遺影を眺めていますと、厳しくもやさしかった先生から、しっかりと肩をたたかれるような気がします。今にも先生が話しかけてこられそうな気がします。そしてそんなときの先生のいくつもの顔が目の前に浮かんできます。

ちよつといいですか、と研究室に呼ばれ、ご注意やご意見、ご相談をなさる時の真剣なお顔。ご存じない、それはいけませんねと少しおどけて、時には、そんなこともしらないんですかとややきつめに、教え諭していただいた時の生真面目なお顔。どうしたら学生は本を読んでもくれるのだろうか、と自問自答のようにお尋ねになった時の悩ましげなお顔。いつの場合でも先生は真摯で一生懸命でした。

奥様が患われている時の、心配で心ここにあらざるようなお顔、親を見るために帰ってきたのに、と言葉すくなく肩を落とされた時の沈痛なお顔、いやあ、サッカーばかりしていて勉強してくれんですわ、とその言葉とは反対に目を細められたお顔・・・先生がご家族について語られる時は、その言葉が愛情に満ちておりました。今お別れしても、先生はきつと温かく見守ってくださいと思っています。ご遺族の皆様には慰めの言葉もございませんが、なにとぞご自愛ください。微力ながらご遺族のために尽力いたしますことお誓いいたします。

先生は闘病生活でもずっとはつきりと意識を保ち、弱音を吐かずにじっと耐えられておられたと聞いております。先生らしい、立派なご態度で、余人の真似のできないものであったと思います。

先生、最期まで全力で一生懸命に生きぬいてこられた後小路先生、お疲れもたまっていらっしゃることでしょう。今はゆっくりとお休みください。そして十分にお休みになりましたら、お浄土より私たちを見守り、お導きください。かなしいですが、しばらくのお別れです。長い間お世話になり、ありがとうございました。

別府大学国文学科 山本裕一